

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291100095		
法人名	有限会社 かつみ		
事業所名	グループホーム あんしん木更津		
所在地	千葉県木更津市万石字中道654-2		
自己評価作成日	平成28年6月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.homes.co.jp/facility/basic/f=44886/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPO共生		
所在地	千葉県習志野市東習志野3-11-15		
訪問調査日	平成28年6月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

平成27年4月にオープンし、丁度2年目に入った事業所である。千葉アクアラインに通じる高速道路にほど近い新興住宅地の中に位置し、静かな環境の中にある。職員の皆さんは管理者を始め、皆さんベテラン揃いで、利用者の方々も安心して暮らすことの出来るホームであると感じられる。「美しい介護」「美しい老後」「ゆとりある老後」という言葉が書かれた額が、玄関に掲示されており、独自の理念が伺える。共同生活介護を目指す事業所として、家庭的な環境と地域住民との交流の下、利用者の持つ能力に応じた日常生活を送ることが出来る様、支援されている状況がよく分かる事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会議等を利用し、「個人を尊重し安全で安心できる、楽しく美しい生活の場を地域との連携の中で和の心をもって確立する」法人理念を具体化したもの、理念に基づく行動目標を伝え、職員間で共有できるように努めている。	法人の理念を更に当施設の方針に落とし込んだものを玄関に掲げ、職員だけでなく来訪者の方たちにも分かるようにしている。施設の掲げる方針の実現に向けて、月1回の全体会議あるいは日々の活動の中で確認し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	食材の買い物を入居者様と一緒に行き交流を図っている。散歩や個別での外出機会を設け、ホーム内だけの閉ざされた生活にならないように心がけている。	施設の開所以来、地域の自治会に加盟しており、掃除がある日には積極的に参加している。住宅地のなかにある施設であり、当初は施設の性格上、ご近所とのお付き合いもぎこちないものであったが、現在は普通の近所づきあいができている。	開所以来1年が経過し、徐々に地域に溶け込んでいっている状況である。今後、開かれた施設として、地域に向けて情報発信ができる仕組み作りが期待される。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域包括センターと連携をして地域住民の要支援、軽度の認知症の方の折り紙教室などを、施設を開放し行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	日程調整中、近日中に行う予定。	6月に第1回運営推進会議が予定されており、市の高齢者福祉課、地域包括支援センター、民生委員、地区の組長、利用者、ご家族等のメンバーが参加される予定となっている。案内書も出来上がっており、関係者には送付済みである。	運営推進会議開催をきっかけに、門戸を開いた地域の施設として一般の人たちが容易に訪問できるよう、施設からの一層の働き掛けが望まれる。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域包括センターと連絡を取り合い情報交換をしている。市福祉課等、こまめに連絡を取り合い参考意見等の実践に努めている。	市内には管轄地区の西部を始め、東部、南部、北部と4つの地域包括支援センターがある。この4つのセンターとは常に連絡を取り合っており、現在、月に1回程度の施設見学の申込があり、これを受け入れている状況となっている。	市、地域包括支援センターとの交流をますます深め、地域での存在価値が高められていくことが期待される。
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内研修として、資料を用い、どのような影響があるか理解を深め、身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	当施設の管理者は、千葉県身体拘束廃止指導者の資格を持っており、日常業務や全体会議の中で職員にはこまめに周知徹底を図る指導が行われている。先ず第一に、利用者の行動を止めるという身体拘束を極力避けることを実践している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内研修として、資料を用い、虐待とは何か理解を深め、認知症に対する理解、人としての理解を随時話合える環境づくりに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修として、現状権利擁護が必要とされる背景や権利侵害等、成年後見人について学び、得た知識を活用できるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前に面談をし、疑問や不安点を聞き、十分説明を行い理解、納得をして頂けた上で署名捺印を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	市福祉課、相談員に月に一度依頼している。ケアプラン更新時に要望等言える機会を設けている。意見を伝えやすいような声掛けに心をかけている。	月に一度相談員が来訪されており、利用者が職員になかなか言えないことも相談員が上手に聞き取ってくれ、報告を受けることがある。施設としては、大変助かっており、報告内容を尊重し、十分な対応が出来るような仕組み作りがなされている。	相談員からの報告、ケアマネージャーを交えたケアプランの作成等が十分に反映され、利用者へ満足のいく対応が今後、期待される。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営している上で、原則となることについては説明し理解をして頂けるようにしている。意見や提案などについては、その都度聞いている。月に一度の会議で意見交換の場を設けている。	運営方針が徹底されるよう、朝の送り時に、職員間で確認が行われている。職員が業務中に思ったことはその場で意見が言える環境下であり、個々に出た課題等は全体会議で討議され職員間での共有化が図られるよう心掛けている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	概ね半年に一度人事考課を行い、職員の実績を具体的に評価する。また、本人にも自己評価を行ってもらい、本人の課題や努力しているところを把握した上で個々の目標設定を行えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	必要となる共通の知識や技術については、会議やその他機会を設け、身につけてもらえる取り組みを行っている。外部での研修等、参加できる環境の確保に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の事業所と交流する機会を作り、情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初回面接時に、希望や不安なことをお聞きし受け止めている。入所後は環境が大きく変化するため、多く関わられる環境をつくり、それらの解消に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所申し込み時点で、ご家族が抱えている不安や悩み、施設に対しての考え、入所後の不安等、可能な限り理解し、どのように支援していくか共に考えていける関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所前後において随時ヒヤリングを行い、必要とされる支援を提供できるよう体制を整えられるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	認知症→人知症、対人援助職という意識をもち、「人」が生活を営む姿を支えることが、グループホーム職員の役割ということを共通の認識とできるように努め、入居者様がその有する能力に応じ、自立した日常生活が営むことのできるよう支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入所申し込み時点から、共に考えていける関係性を築けるように努め、ご家族の状況を踏まえた上で、協力していただける関係となるようこしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	親戚や近隣の方の面会や電話、手紙等の関係の継続は多くみられる。馴染みの店に買い物に行ったり、食事に行ったり、散髪、入所前からの活動参加も、ご家族対応により継続している。	利用者の方たちは、周辺地域で暮らしていた方が殆どで、施設に面会に来られる方も多く、自宅の延長線上での生活が出来ていると言えよう。利用者からの希望があれば、先ず家族の了解を得て、対応するように心掛けています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	共同生活において、食事づくり、洗濯等、個々にできる役割を大事にし、食事の見守りや散歩時の車いすを押してもらうなど、支え合う瞬間を大切にした支援が行えるような環境が整えられるように意識した声かけをしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所されたご家族との連絡を保っている。退所後も、相談しやすい環境に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりの思い出や希望に関心をもち、本人主体となれるような関わりがもてるように努めている。	利用者本人にとって最良な状態をご家族を交え話し合っているが、本人との意向のギャップを感じる事が多い。未来の事はあまり言わず、日々、今日のここでの暮らしについて思いを汲み取るように努めている。	日々の関わりの中で、利用者本人の気持ちの変化を感じた場合は、必ず記録し、職員全員でそれを共有することが重要です。その為のセンター方式の活用を期待します。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	初期段階だけでまなく、継続的に日々の生活の中、情報収集を行うように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	「人知症」、一人一人違うことを念頭に置き、日々の過ごし方は自分で決められるよう、説明→同意→実行と無理強いのないような生活支援に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者を決め、今必要なニーズの把握と、日々の甲し送りでの情報の共有、その情報をもとに介護計画を作成している。	ケアマネと担当職員はフェースシートからアセスメントを作成し24時間の生活シートに落とし込む作業を行っている。週1回ケアマネからのモニタリングシートは全体会議でのカンファレンスや、サービス担当者会議等で生かされ、ケアプラン見直しの情報として活用されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	大事な部分については赤字や青字で分け、工夫している。記録の内容や書き方については話し合い、よりよいものになるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人のニーズに対応できるよう外出の機会を多く設けたり、他の施設の入居者同士の交流を設けたり、地域のボランティア等に来所していただいている。今後は、地域のイベントへの参加を検討していきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	スーパー、コンビニ、外食、行楽地、ご本人やご家族の意向もとに資源の活用に関心している。今後も継続できるように努めていきたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	現在は提携医院と連携をとり、対応している旨伝え理解を得ているが、引き続きかかりつけ医院を希望される方については、継続して受診を行なっている。	提携医には月1回外来の受診支援を行っている。事業所内の体制は人員に不足が出ない様、薬出しの日に合わせシフトを厚くする対応を行っている。服薬については主治医の先生の指導で、出来るだけ減らす方向で相談を行っている。	事業所の都合で一律の受診とならない様、利用者主体の受診を継続できる支援を期待する。
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	受診前後の状態の変化や相談したい内容についてまとめ、指示、助言等共有できるようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、相談員と随時確認を行いながら、円滑に退院までの流れを作れるようにしている。また、入院中も、ご家族との連絡や画会を心がけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所契約時に今後どのような形を望んでいるのか確認した上で、重度化及び見取りに関する指針について説明を行い、方向性を共有できるようにしている。	在宅診療契約者については事業所内での点滴等に対応してくれるが、そうではない利用者に対しても事業所として提携医と協力して、機能を充実していく計画である。ご家族の意向により看取りまで希望されれば対応できる体制にある。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員同士の申し送り等、流れの連携はある程度できている。応急手当や初期手当の訓練は定期的に行っているが、今後も継続して学んでいく必要があり、全職員が冷静に対応できるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の火災報知器点検時、火災報知器の取り扱いの訓練を実地している。地震に関しては避難場所の確認等行っている。定期的に訓練を行い、意識してもらえるよう取り組んでいきたい。	4月と9月の年2回、防災管理会社の協力で火災訓練を行っている。地域の理解を更に深め、近所の住民にも訓練に参加して頂けるよう働きかけている。	通報、避難誘導、初期消火、非常食・備品の備蓄、夜間対応、ご家族への連絡等やらなければならないことはたくさんあるが、一つ一つしっかりと確実に対応出来るような訓練を期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	話し方、対応は十分に配慮していくよう、職員研修時には注意を促す。日々の生活の中で関わりを持つ意識をしている。	利用者との会話における注意事項を日頃から徹底しており、言葉かけや介助の対応に配慮している。特に、利用者の前での申し送りや、個人的な会話は厳禁している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	声かけ・傾聴により、本人の思い・気持ちを知る機会を作り、希望を表現できるような関わりを意識している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースに合わせた生活をしていただくように、声かけをして気持ちの把握に努める。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援	髭剃りや整容、洋服選びは本人と共に行っている。馴染みの美容院へ行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事のメニュー・買い物・調理・盛り付け・配膳・下膳・片付けなど、可能な限り一緒に行っている。時には外食やお弁当を作り外で食事などの計画をし職員も一緒に会話をしながら食事を行うことで楽しみになるようにしている。	グループ内、他の事業所では外注を行っているところが多い中、ここでは、お互い出来る範囲で助け合う場面作りを期待し、敢えて自前での食事を提供している。お陰で利用者同志の協力が自然に出来る様になってきた。	年に一度位はご家族をご招待したお食事を開催され、ご理解を得る場面作りをされる事を期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分に関しては個々で摂取量を計算して進めている。食事に関しても、タンパク・野菜を測りカロリー計算をしている。基本的な数字は出しているが、個々の食べる量もあり、バランスよく摂取できるように工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。また、訪問歯科と連携し往診・相談をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別に排泄の間隔、トイレに行きたいときのサインを共有している。常時オムツ使用は避けるようにして、可能な限りトイレでの排泄が行えるように取り組んでいる。	利用者9名のうち、車いす利用の2名以外はほぼ自立されており、入所当時のリハパンから現在では通常の布パン利用となっている。昼間は声掛けによるトイレ誘導のみで、オムツは使用していない状況にある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日々の生活の中で体を動かしてもらえような支援を意識している。意識して飲食物の提供にも心がけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴できる環境になっている。時間の決まりもなく、自然と個々の入る時間が決まっている。	利用の曜日は特に決めず、週に2回以上入浴することを勧めている。中には「家に帰って入る」という方もいるが、お風呂場まで誘導してしまえば入って頂けている。入浴介助が必要な利用者は3名、その他の利用者は見守り、声掛けの対応である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の状態や休息を希望された場合は、時間にとらわれず体んでいただけるようにしている。就寝・起床時間は決めていない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別に処方箋の管理をしている。薬の変更はケース記録に記入と口頭での申し送りを行っている。状態の観察を細かく行えるように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の得意なこと、できることを、進んで行っている。継続して行っていけるように努めたい。お酒・タバコなど行っているが、新たに探せる関係を作って行きたい。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物や散歩は日常的に行い、月に一度の外食会や、季節毎に、季節を感じる外出支援を行っている。普段行けないような場所も出かけられるように努めている。ご家族や近隣の方々との協力しあえるような関係を築き、今後の活動に活かしたい。	日常的には洗濯物の取り込みや、草むしり等で外に出る機会はあるが、食材の買い出しでの外出が主となる。その他季節ごとに公園や花見等の見学等行う。昨年度は2回程、遠出でディズニーランドと東京見物に出掛けた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人の能力、希望に応じ、自己管理をしてもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由にやり取りをできる。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除は職員が行い清潔保持に努めている。温度・湿度、換気などを行い、心地よく過ごせるように工夫している。	飾りものはそれほど多くはないが、生け花は枯れない様に気を付けていたり、メダカの餌付も欠かさず行う。現在、利用者の癒しとなる様ペット(犬か猫)を飼うことを計画している。外出レクリエーション時の写真等も、壁に貼り出すなど、もう少しにぎやかな雰囲気づくりを目指している	開設1年で大変綺麗な空間であります。少し殺風景な雰囲気も感じられます。生活感があり、利用者が落ち着いてくつろげる雰囲気作りを期待します。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	外の景色が見える場所にテーブルと椅子を設置し、気の合う利用者同士が関わりがもてるようにしている。居室での静養も大切にしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだ品や、家族との写真など心穏やかに過ごせるように配慮している。	洋室が4部屋、和室が5部屋あり、カーテン、照明、エアコン以外は特に持ち込み品の規制は行っていない。ご家族による食べ物、飲み物の持ち込みの際は報告をお願いしている。室内の掃除等は本人以外に職員も気をつけて対応をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々にリスクが違うので、構造上、個々のリスクがある部分を理解しつつ、自立した生活を送れるよう心がけている。		